

# 保 健 体 育 科 学 習 指 導 案

## 単元名 武道「剣道」

令和6年10月 第3学年 指導者 小林 武瑠

### I 単元の構想

#### 1 単元観

剣道は、剣道具を着用し竹刀を使って、基本動作や基本となる技を用いて、「有効打突」を目指して、相手を攻撃したり相手の技を防御したりする攻防を展開することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、剣道を通して、礼儀作法や相手を尊重する考え方など、人間形成に関わる考え方を習得することができる単元でもある。

本単元では、剣道の基本技を安全かつ分かりやすく習得するために、「木刀による剣道基本技稽古法」を教材に取り入れた。また、「木刀による剣道基本技稽古法」を用いて、剣道の伝統的な考え方を学び、剣道の基本技を大きな動作で正確に打突することを学習のねらいとしている。

したがって、「木刀による剣道基本技稽古法」における自己や仲間の課題を発見し、技の出来映えを他者に伝えたり、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫したりする活動を通して、技能の向上や習得を図り、互いに高め合う楽しさや喜びを味わわせたいと考え、本単元を設定した。

#### 2 研究との関わり

本研究では、生徒たちが主体となって授業を行っていく上で、教師が教えるだけでなく、生徒たちが自分たちの力で合理的な課題解決を図っていく必要があると考えた。

そこで、本単元では、課題把握の場面において、「課題チェックシート」を活用し、見るポイントを焦点化していくことで、自己や仲間の課題を見付けていきたい。

課題解決の場面では、班の仲間たちと協力し合い、自己や仲間の課題に応じた練習方法を考え、事前に生徒たちが考えた教具やICTを活用したり、練習方法を全体で共有したりする活動を通して、合理的な課題解決を図っていきたい。

#### 3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開できるようにする。</li><li>・剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、攻防ができるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・1、2年次に剣道を行っているため、技の名称や礼法については概ね理解している。既習事項を生かして、更に技能を高めてさせていきたい。</li></ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"><li>・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようとする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己や仲間の課題を見付けることはできるが、課題解決に向けての取り組み方を工夫できる生徒は少ない。また、考えたことを他者に伝えられる生徒は、特定の生徒に限られている。</li></ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"><li>・武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとすること、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや、健康・安全を確保することができるようとする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自主的に取り組める生徒が多い。また、仲間と協力して練習したり、安全面に留意して準備や片付けをしたりすることができる。</li></ul>

#### 4 評価規準

知識・技能	①剣道の伝統的な考え方、技の名称や行い方、「木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）」の形のポイントを理解している。 ②剣道の基本動作や基本となる技を用いて、「木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）」の形を大きな動作で正確に打つことができる。
思考・判断・表現	①自己や仲間の課題を見出し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫したり、自己や仲間の考えを他者に伝えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	①自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ②自己の責任を果たし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしている。

#### 5 指導及び評価、ICT活用の計画（全7時間：本時第4時）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目＜方法（観点）＞ ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
つかむ	1	■剣道の単元の見通しをもてるようする。 □オリエンテーション、学習のきまり、授業の流れ、補助運動について知る。		○		◆自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 <観察・ワークシート（態①）>  [単元の学習課題] 剣道の伝統的な考え方を知り、「木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）」の形を大きな動作で正確に打てるようにしよう。
追究する	2	■木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本2）について振り返り、形のポイントを理解することができるようとする。 □補助運動→形練習→判定試合 ★自分の動きと手本の動きを比べる。	○			◆木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本2）の形のポイントを理解している。 <観察・ワークシート（知①）>
	3	■木刀による剣道基本技稽古法（基本3）について知り、形を打つことができるようとする。 □補助運動→形練習→判定試合 ★自分の動きと手本の動きを比べる。	●			◆木刀による剣道基本技稽古法（基本3）の形のポイントを理解している。 <観察・ワークシート（知①）>
本時	4	■自己や仲間の課題を見付け、仲間と協力して課題解決の練習方法を考え、課題を改善することができるようとする。 □補助運動→課題凹屋→課題練習→判定試合 ★動画を撮り、課題解決を図る。		●		◆課題チェックシートを用いて、自己や仲間の課題を見付け、課題解決に向けての練習を工夫したり、出来映えなどをアドバイスしたりしている。 <観察・ワークシート（思①）>  [本時のめあて] 自分や仲間の課題を見付け、仲間と協力し合いながら合理的な練習方法を考え、課題を改善していく。
まとめる	5	■木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）の形を大きな動作で正確に打つことができるようとする。 □補助運動→形練習→判定試合 ★動画を撮り、自分の動きを確認する。	●			◆大きな動作で正確に形を打つことができる。 <観察・ワークシート（技②）>
	6	■団体戦の行い方を知り、団体戦に向けてチームごとに練習を行う。 □補助運動→団体戦説明→形練習		●		◆自己の責任を果たし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしている。 <観察・ワークシート（態②）>
	7	■団体戦を実施し、単元を振り返る。 □補助運動→団体戦→単元の振り返り	総括的評価			◆学習してきたことを生かして、取り組もうとしている。 <観察・ワークシート（総括）>

## II 第4時の学習

1 ねらい 課題チェックシートを用いて自己や仲間の課題を見付け、仲間と協力して課題解決の練習方法を工夫したり、アドバイスしたりする活動を通して、課題を改善できるようにする。

## 2 展開

主な学習活動 予想される生徒の反応 [S] ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<b>1 準備体操及び補助運動を行う。(導入①10分)</b> <主運動につながる補助運動> ①足さばき ②素振り（面・小手・胴） S：足さばきが速くできるようになってきた。 S：大きく正確に素振りができるようになってきた。	○剣道の動きや形の基本動作を身に付けられるように、補助運動の中に反復練習を取り入れる。
<b>2 挨拶</b> <b>3 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(導入②5分)</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>めあて</b>            自分や仲間の課題を見付け、仲間と協力し合いながら合理的な練習方法を考え、課題を改善していこう。         </div> S：自分の課題を見付けて、課題を改善したいな。	○剣道における礼儀作法を習得するために、授業の挨拶は、剣道の挨拶（正座・黙想・礼法）で行う。
<b>4 班ごとに課題を見付ける。(展開①10分)【★撮影】</b> <予想される課題> 「気」：声が小さい。 「剣」①：振り上げが小さい。 ②：振り上げたときに木刀の角度が下がってしまう。 ③：木刀の物打ちで打突部位をとらえていない。 「体」：姿勢（正中線）が崩れている。 S：振り上げが小さいな。 S：姿勢が前傾になっているな。	○前時の学習とのつながりを意識して取り組めるように、前時のポイントを確認する。 ○生徒たちが主体的に活動できるように、生徒たちの言葉からめあての設定をする。 ○見るポイントをわかりやすくするために、ポイントを「気・剣・体」に焦点化する。 ○自分のできているところや課題を見付けるために、課題チェックシートを活用する。 ○課題チェックシートと撮影した自分の動きを比較しながら、自分の課題をワークシートに記入させる。
<b>5 班ごとに課題解決に向けての練習を行う。</b> <b>【★撮影・視聴】(展開②15分)</b> <予想される課題解決に向けての練習方法> 「気」の課題 → 声を聞いてもらう。 「剣」①の課題→ゆっくり振り上げる。 ②の課題→下がらないように木刀で当ててもらう。 ③の課題→友達に横から見てもらう。 「体」の課題 → 動画で確認する。 S：振り上げたときに木刀が下がってしまうから、下がらないように木刀を当ててもらおう。 S：木刀の物打ちで打突部位をとらえているか、友達に横から見てもらおう。	○課題解決ができるように、課題解決に必要な練習方法を考えさせながら、班ごとに練習に取り組ませる。 ○手本動画や形のポイントを必要に応じて視聴できるように、プロジェクターで流したり、ロイロノート・スクールに載せておく。 ○課題解決に向けての練習がさらに深まるように、よく考えられている班の練習方法を紹介し、全体に共有する。
	<b>◆評価項目</b> 課題チェックシートを用いて、自己や仲間の課題を見付け、課題解決に向けての練習を工夫したり、出来映えなどをアドバイスしたりしている。<観察・ワークシート（思①）>
<b>6 気・剣・体の判定試合を行う。(展開③5分)</b> ・一人対一人。審判3人。ローテーションで行う。 ・主審は声（気）、副審①は打突（剣）、副審②は姿勢（体）を判定し、よかつた方に手を挙げる。 ・手が多く挙がった方を勝ちとする。	○本時の学習で学んだポイントを生かして、「気・剣・体」の判定試合に取り組むように促す。
<b>7 本時の学習を振り返り、全体で共有する。(終末5分)</b> S：友達からアドバイスをもらって、課題を改善することができた。	○本時の学習を振り返り、めあてに対して、よくできた点や課題点、気付いたことなどをワークシートに記入するように促す。 ○振り返りを数名に発表してもらい、全体で共有する。
<b>8 挨拶</b>	

### 3 板書計画

#### ～単元の目標～

剣道の伝統的な考え方を知り、「木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）」の形を大きな動作で正確に打てるようにならう。

#### ～本日のめあて～

自分や仲間の課題を見付け、仲間と協力し合いながら合理的な練習方法を考え、課題を改善していこう。

#### ～木刀による基本技稽古法のポイント～

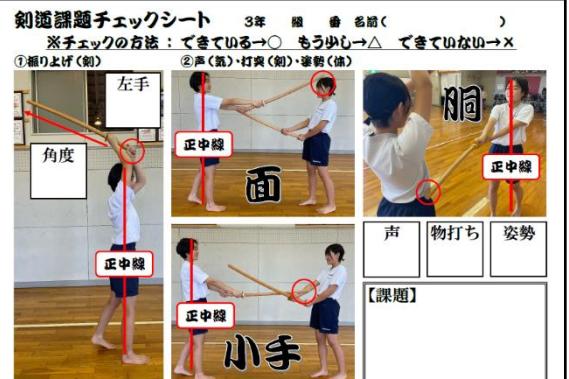
**氣**：充実した気勢。（大きな声）

**剣**：左手の位置は頭上まで上げる。

振り上げの角度は45度。

物打ちで打突部位をとらえる。

**体**：姿勢（正中線）を崩さない。



### III 備考

#### 1 木刀による剣道基本技稽古法

基本1 一本打ちの技 「正面」「小手」「胴（右胴）」「突き」 ※本単元では「突き」は扱わない。

基本2 連続技（二・三段の技）「小手 → 面」

基本3 払い技 「払い面（表）」

基本4 引き技 「引き胴（右胴）」

基本5 抜き技 「面抜き胴（右胴）」

基本6 すり上げ技 「小手すり上げ面（裏）」

基本7 出ばな技 「出ばな小手」

基本8 返し技 「面返し胴（右胴）」

基本9 打ち落とし技 「胴（右胴）打ち落とし面」

#### 2 参考文献、著作権関係等

- ・「令和6年度体育・保健体育指導力向上研修（東部ブロック）」資料
- ・日本武道館「令和5年度全国剣道指導者研修会」資料
- ・全日本剣道連盟「木刀による剣道基本技稽古法」

本指導案に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は商標登録

ロイロノート・スクールは、株式会社 LoiLo の商標です。

なお、本文中には™ マーク、® マークは明記していません。